

キャリア

「キャリアって何だろう？」とある大学で尋ねたところ、某男子学生が「仕事のできる人のこと」と答えてくれた。英和辞典を開くと、経歴、生涯などのほか、一生続けていく専門職というのが確かにある。公務員の上級職を日本ではキャリアと呼び、有能でバリバリ働く女性を、キャリアウーマンと称した。

しかし、梅澤正氏によれば、キャリアという用語に当てはまる概念は、元々、日本語にはないという。木村周氏は、キャリアとは、「人が生涯を通じて関わる一連の労働や余暇を含むライフスタイル」といい、職業心理学の世界では、発達、自己概念、能力・特性などを重視した内容になる。一方、組織心理学や社会学の立場では、「組織において階級の上昇を示す外的キャリアと、個人の自己概念を表わす内的キャリアを合わせた概念」といった組織との関連における個人の職業上の移動や役割を意味するのが多い、と説明する。

キャリアという言葉は、浜口恵俊氏によれば、ラテン語の「競争路」が語源だという。また、キャリアという英語は、もともと道路や競走馬のコースを意味するフランス語から発しており、「疾走する」という動詞の意味を有し、同義語として「進む」「前進」「轍」とがあり、キャリアには、時間的経過と流れ、前や後ろや横に進む動きが含まれていると、渡辺三枝子氏は指摘する。

キャリアは、1950年頃、アメリカで職業生活を中心としたワークキャリアとして提起された。キャリアには、仕事を中心としたワークキャリアと、仕事をはじめ生活全般を含むライフキャリアとに分けて考えられる。

1876年に、スーパーがキャリアの概念を修正して以来、それまで狭義のキャリアの意味として職業上の経歴や履歴を表す概念として使われることが多かったキャリアが、次第にライフキャリア、つまり、職業以外の役割を含めたトータルなものとして、現代では認識されつつある。

「人生を構成する一連の出来事。自己発達の全体の中で、労働への関与として表現される職業と、人生の他の役割の連鎖、青年期から引退期にいたる報酬・無報酬の一連の地位。それには学生、雇用者、年金生活者などの役割や副業、家業、ボランティアなども含まれる」とキャリアを定義づけたスーパーは、人は生涯を通して、子供、学生、職業人、配偶者、家事遂行者、親、余暇を楽しむ人、市民、という8つの役割があると述べて、ライフキャリアの1つのモデルを示した。その考え方は今も生きている。

以上のことから、キャリアの概念をまとめると、次のようなものになるであろう。

【個人の固有の生き方を、職業や組織上の身分や地位の変遷、あるいはさまざまな社会的活動上の役割の組み合わせ、さらに、その個人にとって意味のある人生イベント等で表現された、生涯にわたる経験の連続過程のことである。個人のキャリアが独自で豊かなものになるためには、その個人が持つ確かなアイデンティティと、どう生きれば悔いのない死を迎えられるかといった明確な人生ヴィジョンが不可欠である】

また、キャリアは職業と同義語で使用され混同されることも多いが、藤本喜八氏が「職業がある時点で生計をたてるために行うことであるのに対して、キャリアは一定期間占める職位の先後連鎖関係である」と述べたように、本来は別のものである。キャリアは、職業とは違い、個人や個人の経験と独立しては決して存在しないところにもその特徴がある。

組織主導から個人主導のキャリア形成に移行しつつある今、個々のキャリアの真価が今まさに問われようとしている。それは、キャリアの終焉を迎える時、個人の心の中ではっきりすることであろう。

(文責 金屋光彦)